

一般社団法人人文地理学会

2020 年 定時社員総会 【資料】

日 時：2020 年 11 月 14 日（土） 16 時 30 分～17 時 30 分
会 場：インターネットによるオンライン（Zoom ミーティング）開催
（京都大学人間・環境学研究科棟 437 室）

開会宣言

代議員一覧 …………… 1 ページ

定足数確認

議長選任

議事録署名人選出

議 事：

<報告事項>

1. 2019/20 年度 事業報告 …………… 2～18 ページ
2. 2020/21 年度 事業計画 …………… 19 ページ
3. 2020/21 年度 収支予算 …………… 20 ページ
4. その他

<審議事項>

1. 2019/20 年度 決算 …………… 20～23 ページ
2. 2020 年～2022 年 理事・監事選任 …………… 24～25 ページ
3. その他

閉会宣言

議長解任

＊定時社員総会は会員総会を兼ねています。定時社員総会終了後、新会長・新常任理事の挨拶、第 20 回人文地理学会学会賞受賞者の表彰式が行われます。

一般社団法人人文地理学会 代議員

任期：2020 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日

浅野 敏久	加藤 政洋	高橋 誠	藤塚 吉浩
天野 太郎	川口 太郎	高柳 長直	二村 太郎
荒木 一視	川口 洋	田中 和子	古田 昇
伊賀 聖屋	川久保 篤志	谷 謙二	松井 圭介
池 俊介	河島 一仁	土谷 敏治	松原 宏
池口 明子	河原 典史	土屋 純	三木 理史
市川 康夫	桐村 喬	堤 研二	水野 真彦
伊藤 悟	久木元 美琴	寺床 幸雄	南埜 猛
伊藤 貴啓	呉羽 正昭	土居 晴洋	宮内 久光
稲垣 陵	河本 大地	友澤 和夫	森 正人
今里 悟之	古賀 慎二	豊田 哲也	矢野 桂司
岩崎 公弥	小島 泰雄	長尾 謙吉	矢部 直人
岩鼻 通明	後藤 拓也	中川 秀一	山口 晋
内田 忠賢	駒木 伸比古	中島 弘二	山崎 孝史
宇根 義己	米家 泰作	中西 僚太郎	山下 清海
大西 宏治	酒川 茂	中谷 友樹	山近 久美子
小方 登	佐藤 廉也	仁平 尊明	山村 亜希
岡本 耕平	佐野 静代	根田 克彦	山本 理佳
小田 隆史	島津 俊之	野間 晴雄	由井 義通
小田 宏信	杉浦 真一郎	箸本 健二	湯澤 規子
小田 匡保	須原 洋次	橋本 雄一	吉田 道代
遠城 明雄	関戸 明子	初澤 敏生	若林 芳樹
加賀美 雅弘	外戸保 大介	服部 亜由未	渡辺 理絵
香川 貴志	平 篤志	林 上	
香川 雄一	高野 岳彦	藤井 正	以上 101 名
梶田 真	高橋 春成	藤田 裕嗣	五十音順

代議員選挙は、2020 年 7 月 14 日に投票用紙発送、8 月 6 日に投票締切、8 月 11 日に開票が行われた。代議員は、当選者・次点者のうち就任を受諾した 100 名に、「一般社団法人人文地理学会会長選出に関する規程」第 6 条 2 項の規程に基づいて会長候補者を加えた 101 名である。

2019/20 年度事業報告（理事会案）

1. 庶務委員会（小島泰雄常任理事）

① 会員の動向（2020 年 9 月 30 日現在）

年 度	2014	2015	2016	2017	2018/19	2019/20
会 員	1,249	1,245	1,220	1,221	1,165	1,164 (国内 1,158, 海外 6) 他に団体会員 137
	150	146	144	144	140	
(学生)	(115)	(135)	(164)	(140)	(130)	(125)
入 会	46	42	36	33	32	31
(学生)	(17)	(31)	(21)	(22)	(20)	(20)
退 会	40	43	22	33	40	37
(学生)				(7)	(4)	(8)
資格喪失	—	15	—	54	—	39

* 資格喪失は隔年（名簿発行年）

② 交換・寄贈雑誌（2020 年 9 月 30 日現在）

国内交換雑誌 44 誌 海外交換雑誌 10 誌

③ 2019/20 年度常任理事会・社員総会・理事会の開催

常任理事会（定例 5 回，臨時 2 回）

社員総会（1 回）

理事会（6 回；10 月 19 日、12 月 21 日，4 月 12～20 日（書面），
6 月 18～26 日（臨時、書面），7 月 11 日（オンライン），
9 月 26 日（オンライン））

2. 会計委員会（福田珠己常任理事）

① 会費納入状況（2020 年 9 月 30 日現在）

会員数(個人) 1164 名(内 海外会員 6 名)

○ (国内) 会員 1158 名

第 72 巻まで完納: 930 名(永年会員 55 名含む 納入率 80.3%)

第 71 巻まで納入（1 年未納）: 148 名(内、住所不明 2)

第 70 巻まで納入（2 年未納）: 34 名(内、住所不明 4)

3 年未納による資格喪失者 39 名

○ 海外会員 6 名

(内、1 名は永年会員、2 名は第 72 巻まで完納)

○ 永年会員 56 名

(2019/20 年度中の移行者 7 名)

② 部会会計報告 (2020 年 9 月 30 日現在)

研究部会名	予算(円)	支出(円)	残高(円)
歴史地理	80,000	8,000	72,000
地理思想	80,000	21,544	58,456
都市圏	80,000	10,000	70,000
地理教育	80,000	26,220	53,780

③国際地理オリンピックへの寄付

学会としての寄付金額にふさわしい 10 万円を寄付することになった。

3. 編集委員会 (島津俊之常任理事)

① 定期刊行の実現

会誌『人文地理』は、第 71 巻第 3 号より第 72 巻 2 号まで、定期刊行を実現した。

② 会誌編集状況

別紙参照

4. 集会委員会 (香川貴志常任理事)

① 大会

1) 2019 年人文地理学会大会 (参加総数：344 人、私立学校教員選考会を除く)

関西大学千里山キャンパス 2019 年 11 月 16 日 (土)、17 日 (日)、18 日 (月)

11 月 16 日 (土)：午前 ミニエクスカーション (2 件)

午後 特別研究発表 4 件、一般研究発表 (ポスター発表 7 件)、

定時社員総会、懇親会

17 日 (日)：午前・午後 一般研究発表 59 件 (口頭発表 46 件、ポスター発表[既出 7 件])、公募セッション 4 組 18 件

午後 地理教育公開講座 1 組 6 件、私立学校教員選考会 (後援)

18 日 (月)：エクスカーション

2) 2020 年人文地理学会大会

金沢大学で予定していたがオンライン開催 (11 月 14 日 (土)～23 日 (月・祝)) に変更。特別研究発表 4 件、一般研究発表 36 件。定時社員総会は事前に書面開催、会員総会はオンライン開催。

② 例会

1) 第 291 回例会 2019 年 10 月 5 日 (同志社大学今出川キャンパス)

テーマ「フィールドワークを考える—私たちはどのようにして調査地との関係を取り結ぶのか—」, 報告 3 件, コメント 2 件, 参加 24 名。

2) 第 292 回例会 (特別例会) COVID-19 拡大の状況に鑑み中止。(当初は 2019 年 6

月 27 日・28 日、北海道大学が開催幹事校となって北海道札幌市の道民文化ホール「か
でる 2・7」で開催を計画)。

③ 研究部会

*政治地理研究部会が 2018/19 年度を以て活動を停止したため、本年度は 4 つの研究部
会での活動となったが、COVID-19 拡大の影響を受け、研究部会活動は大きな制約を強
いられることとなった。

1) 歴史地理研究部会

第 157 回 2019 年 11 月 17 日 大会部会アワー (関西大学), 報告 1 件, 参加者 36 名

2) 地理思想研究部会

第 134 回 2019 年 11 月 17 日 大会部会アワー (関西大学), 討論 1 件, 参加者 30 名

第 135 回 2019 年 12 月 7 日 明治大学, 報告 1 件, 参加者 15 名

第 136 回 2020 年 5 月 31 日 京都府立大学 (順延・期日未定)

第 137 回 2020 年 8 月 22 日 オンライン開催, 報告 1 件, 参加者 38 名

3) 都市圏研究部会

第 66 回 2019 年 11 月 17 日 大会部会アワー (関西大学), 報告 1 件, 参加者 34 名

4) 地理教育研究部会

第 48 回 2019 年 11 月 17 日 大会部会アワーに「地理教育公開講座」として実施 (関
西大学), 報告 6 件, 参加者 87 名

第 49 回 2020 年 4 月 18 日 兵庫県高砂市 (順延・期日未定)

第 50 回 2020 年 7 月 19 日 オンライン開催, 報告 3 件, 参加者 116 名

④ 2021 年の大会と例会 (特別例会) の予定

1) 2021 年大会

関西学院大学上ヶ原キャンパスにおいて 11 月 20 日 (土)・21 日 (日) に開催予定

2) 第 293 回例会 (特別例会)

長崎大学に開催幹事校を務めていただき 2021 年 6 月 26 日・27 日に開催予定

*COVID-19 の情勢を注視しつつ、とくに懇親会とエクスカージョンの方法について
慎重に進めていくが、懇親会は厳しいという見方が大勢。

5. 企画委員会 (松田隆典常任理事)

① 第 20 回人文地理学会 学会賞

・学会賞候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した (2019 年 12 月)。※印は委員長
〔学術図書部門、学術図書部門奨励賞〕

三木理史 (奈良大学、留任) ※、 古賀慎二 (立命館大学、新任)、

吉田剛 (宮城教育大学、新任)、 山村亜希 (京都大学、新任)

〔一般図書部門〕

林紀代美 (金沢大学、留任) ※、 作野広和 (島根大学、留任)、

寺谷亮司（愛媛大学、新任）、 門井直哉（福井大学、新任）
〔論文部門〕

山根拓（富山大学、留任）※、 堤純（筑波大学、留任）、
今里悟之（九州大学、留任）、 香川雄一（滋賀県立大学、新任）
・学会賞候補者選考委員会(2020 年 3 月～4 月)

2020 年 3 月 27 日、滋賀大学大津サテライトにおいて学術図書部門の学会賞候補者選考委員会を開催した。一般図書部門および論文部門は新型コロナウイルス感染拡大のためにオンラインで会議を実施した。各委員会では、9 月中旬の答申までの委員会の進め方について意見交換がなされた。

・学会賞候補者選考委員会からの答申（2020 年 9 月）
各部門の候補者選考委員会から受賞候補者について答申があった。受賞候補者および候補図書・論文は以下の通りである。なお、本答申については、2020 年 9 月 26 日の第 4 回理事会で承認された。

〔学術図書部門〕

受賞候補者：熊谷圭知

受賞対象図書：『パプアニューギニアの「場所」の物語—動態地誌とフィールドワーク—』九州大学出版会,2019 年,528 頁

〔学術図書部門奨励賞〕

受賞候補者：網島聖

受賞対象図書：『同業者町の研究—同業者の離合集散と互助・統制—』清文堂出版, 2018 年, 248 頁

〔一般図書部門〕

受賞候補者：関戸明子

受賞対象図書：『草津温泉の社会史』, 青弓社, 2018 年, 219 頁

〔論文部門〕

受賞候補者：佐藤香寿実

受賞候補論文：「「スケールのパフォーマティヴィティ」とストラスブールの大モスク建設—アクターの言説実践に着目して—」,『人文地理』第 71 巻 4 号, 2019 年, 393-416 頁。

② 地理学連携機構の会合

・2020 年 3 月 26 日に予定されていた、第 12 回地理学連携機構、地理関連学会連合、人文・経済地理関連学会協議会の合同総会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。代わって日本地理学会秋季大会において予定された合同総会も同様の理由で中止された。

③ 若手研究者国際会議派遣助成

・若手研究者国際会議派遣助成選考委員会委員を以下の通り委嘱した（2019 年 12 月）。 ※印は委員長

由井義通（広島大学、3 年目委員）※、吉田道代（和歌山大学、2 年目委員）

吉田容子（奈良女子大学、新任）

・2 月末で第 5 回募集を締め切り、第 2 回理事会（4 月 11 日～18 日）において選考委員会による答申が審議・承認された。助成対象者と発表題目は以下のとおりである。

栗林梓, Student geographies and transformations of urban spaces in Japan: Focusing on demand and supply of apartments for students

なお、当該の IGC イスタンブール大会は 1 年間延期を決定したので、助成対象者から参加の意思を確認した。

・4 月の第 2 回理事会および第 3 回理事会（7 月 11 日）において、助成対象を従来の IGU 関連の研究集会に加えて ICHG (国際歴史地理学会) 関連集会を追加・拡大する改正案を提示し、第 3 回理事会において審議・承認された。

④ 「私立学校地理教員選考会」の開催

・2019 年大会（関西大学千里山キャンパス）の大会開催に合わせて、第 2 日目（11 月 17 日）に㈱ブレインアカデミーの協力のもと「私立学校地理教員選考会」を開催した。2018/19 年度～2019/20 年度の人文地理学会の運営方針のうち、「会員数の維持と新規加入の促進」のための具体的方策として、また「アウトリーチ活動の充実」の一環として行われた。

6. 広報委員会（松田隆典常任理事）

① 学会 HP の運営

・学会の大会・例会・研究部会などの活動や、他学会などからの公募やセミナーなどの情報を、学会 HP を通して社会に公開した。また、学会メーリングリストを用いて会員への情報提供を行った。

② 広報活動

・2019 年大会（関西大学千里山キャンパス）での学会賞表彰式の様子などを HP に掲載するなど、学会活動に関する情報を会員および社会に周知することに努めた。

<収入の部>

科目	2019/2020年度 予算	2019/2020年度 決算	執行率	差額
1 会費	¥11,300,000	¥11,265,528	99.7%	¥-34,472
2 出版物売上	¥1,000,000	¥818,064	81.8%	¥-181,936
3 雑収入	¥150,000	¥656,090	437.4%	¥506,090
4 大会収入(参加費・広告)	¥900,000	¥1,060,500	117.8%	¥160,500
5 受取利息	¥2,000	¥1,121	56.1%	¥-879
6 未払い費用(選・名)	¥200,000	¥200,000	0%	¥0
計	¥13,552,000	¥14,001,303	103.3%	¥449,303

<支出の部>

科目	2019/2020年度 予算	2019/2020年度 決算	執行率	差額
1 雑誌生産費	¥4,000,000	¥3,663,710	91.6%	¥336,290
2 雑誌期首棚卸高		¥1,340,043		
3 雑誌期末棚卸高		¥-1,422,990		
4 編集費	¥350,000	¥209,447	59.8%	¥140,553
5 雑誌発送費	¥660,000	¥708,132	107.3%	¥-48,132
6 集金費	¥200,000	¥495	0.2%	¥199,505
7 大会開催費	¥1,400,000	¥1,628,774	116.3%	¥-228,774
8 研究部会運営費	¥320,000	¥65,764	20.6%	¥254,236
9 給料手当	¥2,400,000	¥2,881,500	120.1%	¥-481,500
10 保険料	¥350,000	¥343,616	98.2%	¥6,384
11 旅費・交通費	¥300,000	¥86,490	28.8%	¥213,510
12 通信費	¥300,000	¥195,108	65.0%	¥104,892
13 顕彰事業費	¥50,000	¥49,258	98.5%	¥742
14 企画・広報事業費	¥40,000	¥0	0.0%	¥40,000
15 会合費	¥60,000	¥31,884	53.1%	¥28,116
16 選挙費	¥200,000	¥118,850	59.4%	¥81,150
17 選挙費積立金	¥0	¥0	0.0%	¥0
18 諸印刷費	¥35,000	¥17,600	50.3%	¥17,400
19 名簿作成発送費積立金	¥300,000	¥302,500	100.8%	¥-2,500
20 名簿作成発送費	¥0	¥0	0.0%	¥0
21 消耗品費	¥140,000	¥119,305	85.2%	¥20,695
22 機械借上費	¥120,000	¥134,889	112.4%	¥-14,889
23 室料(家賃・光熱費)	¥1,267,000	¥1,247,898	98.5%	¥19,102
24 相談手数料	¥100,000	¥89,811	89.8%	¥10,189
25 寄付金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
26 若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000	¥0	0.0%	¥500,000
27 租税公課	¥70,000	¥70,600	100.9%	¥-600
28 諸会費	¥50,000	¥50,000	100.0%	¥0
29 J-stage公開費	¥110,000	¥145,700	132.5%	¥-35,700
30 雑費	¥30,000	¥0	0.0%	¥30,000
31 予備費	¥100,000	¥0	0.0%	¥100,000
計	¥13,552,000	¥12,178,384	89.9%	¥1,373,616

収支差額	¥0
------	----

<繰越金>

前期末純資産額	¥29,592,452
今期末純資産額	¥31,415,371

<収入の部>

科目	2020/2021年度 予算
1 会費	¥11,200,000
2 出版物売上	¥1,000,000
3 雑収入	¥150,000
4 大会収入(参加費・広告)	¥30,000
5 受取利息	¥2,000
6 未払い費用(選・名)	¥0
計	¥12,382,000

<支出の部>

科目	2020/2021年度 予算
1 雑誌生産費	¥4,000,000
2 編集費	¥350,000
3 雑誌発送費	¥660,000
4 集金費	¥200,000
5 大会開催費	¥650,000
6 研究部会運営費	¥320,000
7 給料手当	¥2,400,000
8 保険料	¥350,000
9 旅費・交通費	¥200,000
10 通信費	¥350,000
11 顕彰事業費	¥50,000
12 企画・広報事業費	¥40,000
13 会合費	¥60,000
14 選挙費	¥0
15 選挙費積立金	¥100,000
16 諸印刷費	¥35,000
17 名簿作成発送費	¥0
18 名簿作成発送費積立金	¥100,000
19 消耗品費	¥100,000
20 機械借上費	¥120,000
21 室料(家賃・光熱費)	¥1,267,000
22 相談手数料	¥150,000
23 寄付金	¥100,000
24 若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000
25 租税公課	¥70,000
26 諸会費	¥50,000
27 雑費	¥60,000
28 予備費	¥100,000
計	¥12,382,000

収支差額	¥0
------	----

2019/20年度編集委員会事業報告(別紙)

『人文地理』編集状況

	11/9	1/11	3/14	5/16	7/11	9/12	合計	2019/20	2018/19	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
論説 新規	0	2	0	4	3	3	12	23	31	18	23	26	15	20	20	26
論説 再投稿	4	2	1	0	1	3	11									
展望 新規	0	0	1	0	1	1	3	5	1	0	1	8	4	8	4	6
展望 再投稿	0	0	0	1	0	1	2									
研究ノート 新規	1	1	0	3	1	0	6	22	14	14	28	20	14	10	19	26
研究ノート 再投稿	2	2	4	2	2	4	16									
フォーカス 新規	1	0	1	0	0	1	3	7	3	1	6	4	1	—	—	—
フォーカス 再投稿	0	1	1	1	1	0	4									
合計	8	8	8	11	9	13	57	57	49	33	58	58	34	38	43	58
論説 受理	2	1	1	0	0	0	4	4	5	4	5	6	3	6	4	7
論説 要再投稿	2	1	0	4	3	5	15	15	23	9	11	12	4	9	12	6
論説 返却	0	2	0	0	1	1	4	4	3	5	7	8	8	5	4	13
展望 受理	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2	1	3	2	2
展望 要再投稿	0	0	1	1	1	0	3	3	0	0	0	4	2	4	1	3
展望 返却	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	2	1	1	1	1
研究ノート 受理	1	0	1	1	0	2	5	5	2	5	6	6	5	2	8	8
研究ノート 要再投稿	1	3	3	3	3	2	15	15	7	5	18	10	6	3	8	11
研究ノート 返却	1	0	0	1	0	0	2	2	5	4	4	4	3	5	3	7
フォーカス 受理	0	0	1	0	1	0	2	2	1	0	2	2	1			
フォーカス 要再投稿	1	1	1	1	0	1	5	5	1	0	3	2	0	—	—	—
フォーカス 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0			
合計	8	8	8	11	9	13	57	57	49	33	58	58	34	38	43	58

・原稿種別変更における再投稿の場合、当初種別では「返却」、再投稿時の種別では「新規」として計上した。

・副査は概ね編集委員外の会員に依頼した。

・2019/20年度の年間投稿数は57本と多く、2ヶ年度間の総投稿数は106本となり、2012～2017年度の2ヶ年度間平均総投稿数(88本)を大幅に上回った。

『人文地理』論文受理・返却率

	2019/20	2018/19	2017	2016	2015	2014	2013		2019/20	2018/19	2017	2016	2015	2014	2013
論説受理率	17.4%	16.1%	22.2%	21.7%	23.1%	20.0%	30.0%	論説返却率	17.4%	9.7%	27.8%	30.4%	30.8%	53.3%	25.0%
展望受理率	20.0%	0.0%	—	100.0%	25.0%	25.0%	37.5%	展望返却率	20.0%	100.0%	—	0.0%	25.0%	25.0%	12.5%
研究ノート受理率	22.7%	14.3%	35.7%	21.4%	30.0%	35.7%	20.0%	研究ノート返却率	9.1%	35.7%	28.6%	14.3%	20.0%	21.4%	50.0%
フォーカス受理率	28.6%	33.3%	0.0%	33.3%	50.0%	100.0%	—	フォーカス返却率	0.0%	33.3%	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	—
全体受理率	21.1%	16.3%	27.3%	24.1%	27.6%	29.4%	28.9%	全体返却率	12.3%	20.4%	30.3%	20.7%	24.1%	35.3%	28.9%

・2019/20年度の全体受理率・返却率は、前年度より投稿総数が8本増加したが、夫々上昇・低下した。特に全体返却率は大幅に低下し、返却数も10本から7本に減った。

『人文地理』各号発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	書評	その他
71巻3号	150	24	69	0	19	6	32
71巻4号	111	67	0	0	0	4	40
72巻1号	106	20	0	18	0	10	57
72巻2号	83	23	0	17	13	18	10
2019/20年度合計	450	134	69	35	32	38	139
2018/19年度合計	460	110	67	67	0	82	134
2017年度合計	563	115	69	155	32	36	156
2016年度合計	534	188	96	54	16	38	142
2015年度合計	454	90	22	90	28	24	200
2014年度合計	572	99	86	79	14	24	270
2013年度合計	588	150	88	43	34	0	273

・2019/20年度の総頁数は前年度より10頁減。2013-18/19年度の平均総頁数(528.5頁)を78.5頁下回った。

・2019/20年度の書評頁率(8.4%)は前年度(17.8%)より大幅減だが、2013-17年度の平均書評頁率(4.5%)は上回った。

(財務諸表)

貸 借 対 照 表

一般社団法人人文地理学会

2019年度 2019年10月 1日 ~ 2020年 9月30日

単位：円

勘定科目		繰越残高	借方金額	貸方金額	残 高	構成比
資産の部						
【流動資産】		29,412,378	20,351,140	18,728,401	31,035,117	95.7
(当座資産)		27,304,696	18,851,650	16,709,715	29,446,631	90.8
現金	1000	36,791	4,362,400	4,363,369	35,822	0.1
振替貯金	1010	1,565,705	11,652,680	10,307,096	2,911,289	9.0
普通預金	1020	6,088,576	2,706,728	792,357	8,002,947	24.7
通常貯金	1030	2,271,948	128,796	1,246,893	1,153,851	3.6
定期預金(みずほ)	1040	12,341,676	1,046	0	12,342,722	38.1
定額貯金(ゆうちょ)	1045	5,000,000	0	0	5,000,000	15.4
(棚卸資産)		1,340,043	1,422,990	1,340,043	1,422,990	4.4
会誌	1100	1,340,043	1,422,990	1,340,043	1,422,990	4.4
(その他の流動資産)		767,639	76,500	678,643	165,496	0.5
仮払金	1391	678,643	76,500	678,643	76,500	0.2
未収入金	1392	88,996	0	0	88,996	0.3
【固定資産】		1,400,000	0	0	1,400,000	4.3
(投資その他の資産)		1,400,000	0	0	1,400,000	4.3
保証金	1461	1,400,000	0	0	1,400,000	4.3
資産合計		30,812,378	20,351,140	18,728,401	32,435,117	100.0
負債の部						
【流動負債】		222,890	353,460	153,280	22,710	0.1
預り金	1700	22,890	153,460	153,280	22,710	0.1
選挙費積立金	1710	100,000	100,000	0	0	0.0
名簿作成発送費積立金	1720	100,000	100,000	0	0	0.0
【固定負債】		0	0	0	0	0.0
負債合計		222,890	353,460	153,280	22,710	0.1
純資産の部						
【資本金】		0	0	0	0	0.0
【利益剰余金】		30,589,488	0	1,822,919	32,412,407	99.9
(繰越利益剰余金)		30,589,488	0	1,822,919	32,412,407	99.9
繰越利益剰余金	1959	30,589,488	0	0	30,589,488	94.3
当期純利益	1969	0	0	1,822,919	1,822,919	5.6
純資産合計		30,589,488	0	1,822,919	32,412,407	99.9
負債純資産合計		30,812,378	353,460	1,976,199	32,435,117	100.0

処理日付：2020年10月 2日

損 益 計 算 書

一般社団法人人文地理学会

2019年度 2019年10月 1日 ~ 2020年 9月30日

単位：円

勘定科目		繰越残高	借方金額	貸方金額	残 高	構成比
【売上高】		0	48,060	13,392,152	13,344,092	100.0
会費	2000	0	28,060	11,293,588	11,265,528	84.4
出版物売上	2001	0	20,000	838,064	818,064	6.1
大会収入	2003	0	0	1,060,500	1,060,500	7.9
選挙費積立金等取崩	2005	0	0	200,000	200,000	1.5
【売上原価】		0	1,340,043	1,422,990	-82,947	-0.6
期首商品棚卸高	2280	0	1,340,043	0	1,340,043	10.0
期末商品棚卸高	2281	0	0	1,422,990	-1,422,990	-10.7
売上総利益		0	0	13,427,039	13,427,039	100.6
【販売費及び一般管理費】		0	13,775,838	1,514,507	12,261,331	91.9
雑誌生産費	2310	0	3,827,340	163,630	3,663,710	27.5
編集費	2320	0	209,447	0	209,447	1.6
雑誌発送費	2330	0	710,332	2,200	708,132	5.3
集会費	2340	0	130,000	129,505	495	0.0
大会開催費	2350	0	2,197,346	568,572	1,628,774	12.2
研究部会運営費	2360	0	320,444	254,680	65,764	0.5
給料手当	2370	0	2,881,500	0	2,881,500	21.6
保険料	2380	0	686,316	342,700	343,616	2.6
旅費・交通費	2400	0	139,710	53,220	86,490	0.6
通信費	2410	0	195,108	0	195,108	1.5
顕彰事業費	2430	0	49,258	0	49,258	0.4
会合費	2450	0	31,884	0	31,884	0.2
選挙費	2460	0	118,850	0	118,850	0.9
諸印刷費	2470	0	17,600	0	17,600	0.1
名簿作成発送費	2480	0	302,500	0	302,500	2.3
消耗品費	2510	0	119,305	0	119,305	0.9
機械借上費	2520	0	134,889	0	134,889	1.0
室料（家賃）	2530	0	1,247,898	0	1,247,898	9.4
寄付金	2590	0	100,000	0	100,000	0.7
相談手数料	2591	0	89,811	0	89,811	0.7
租税公課	2593	0	70,600	0	70,600	0.5
諸会費	2594	0	50,000	0	50,000	0.4
J-stage雑誌公開費	2595	0	145,700	0	145,700	1.1
営業利益		0	0	1,165,708	1,165,708	8.7
【営業外収益】		0	0	657,211	657,211	4.9
受取利息	2600	0	0	1,121	1,121	0.0
雑収入	2640	0	0	656,090	656,090	4.9
経常利益		0	0	1,822,919	1,822,919	13.7
税引前当期純利益		0	0	1,822,919	1,822,919	13.7
当期純利益		0	0	1,822,919	1,822,919	13.7

附 属 明 細 書

2020年 9月 20日 現在

一般社団法人人文地理学会

1. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
選挙費積立金	100,000	0	100,000	0
名簿作成発送費積立金	100,000	0	100,000	0

2020年10月6日

監 査 報 告

一般社団法人人文地理学会

監事 出田 和久 監事 伊東 理 

2019/20年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、庶務委員会、会計委員会の分野を中心に調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上

2020年11月14日
16:30～17:30 Zoom 会議

人文地理学会 2019/20 年度 定時社員総会（会員総会）編集委員会 補足資料

1) コロナ禍での 2020 年編集会議の実施状況

- ・第 1 回会議（1/11）、第 2 回会議（3/14）は従来通り学会事務局において対面で実施。
- ・第 3 回会議（5/16）、第 4 回会議（学界展望合評会、6 月）は電子メールでの書面会議で実施（第 3 回は正副編集委員長が学会事務局に詰めて実施し、第 4 回はメール審議とした）。
- ・第 5 回会議（7/11）、第 6 回会議（9/12）は Zoom による遠隔会議で実施（正副編集委員長は学会事務局に詰めた）。第 7 回会議（11/7）も同様に Zoom で実施予定。
- ※書面会議や遠隔会議の実施に際しては、投稿原稿等を PDF 化してドロップボックスに事前に格納し、査読報告書は電子メールで回覧して、事前に編集委員全員が閲覧できるようにした。
- ※遠隔会議としたことで、かえって編集委員全員が事前に余裕をもって投稿原稿や査読報告書に目を通すことができ、かつ、会議への出席率も高まった。
- 編集委員を関西在住会員に限定する必要性が薄れ、このことが、次期編集委員の人選に大きく影響することとなった（“新しい編集様式”）。

2) 『人文地理』誌面の変更

- ・従来、表紙 2（表紙 1 の裏側）に掲載していた会告を、72-1 より、巻末の彙報の後に移した（表紙 2 だと J-STAGE に収録されないため）。
- ・学界展望の個別項目に固有の DOI を付与した関係から、学界展望の細目次を内表紙に移した。

3) 『人文地理』投稿規程等の改訂

- ・すでに新執筆要領のみ 72-2 で先行して公表したが、73-1 に投稿規程等をそれに合わせて改訂し掲載する予定。
- ・文献表へのアルファベット併記に伴い、論文の上限ページ数を 1 ページ増しとし、論説・展望は 25 ページ、研究ノート・フォーカスは 23 ページとした。
- ・PDF での電子投稿を原則とする（ワードファイルでも可）。

4) 『人文地理学会大会研究発表要旨』の編集

- ・2019 年より、学会事務局での編集からドロップボックスを活用したウェブでの編集に移行した。
- ・2020 年より新たに閲読制を導入し、大会研究発表要旨の受付後入稿までの間に、集会委員と編集委員で分担して、主に形式上のチェックを行った。
- ・2020 年は PDF のみで学会ウェブサイトにて全文公開の予定。カラー図表の掲載も可とした。
- ・J-STAGE への登載も引き続き行い、大会終了後に登載作業に入る予定。

5) 「J-STAGE 投稿審査システム」への応募

- ・2019 年度に初めて応募したが不採択。
- ・2020 年 10 月 28 日付の JST からの連絡では、現時点での募集時期は未定で、募集開始時に J-STAGE のトップページで告知するとのこと。公募され次第、昨年と同じくクラリベイト・アナリティクス社の ScholarOne Manuscripts (S1M) タイプを希望する形で応募する。

6) ESCI への収載にむけたクラリベイト・アナリティクス社への働きかけ（→別紙参照）

- ・文献表へのアルファベット併記の情報や J-STAGE の ID・パスワード等の提供を行う必要がある。
- ・学会の英文ウェブサイトのさらなる整備も必要（会誌の Aims & Scope の明確化など）。

1. Initial Triage**2. Editorial Triage****3. Editorial Evaluation**

Quality Criteria			Impact Criteria
✓ ISSN ✓ Journal Title ✓ Journal Publisher ✓ URL (online journals) ✓ Content Access ✓ Presence of Peer Review Policy ✓ Contact Details	✓ Scholarly Content ✓ Article Titles and Article Abstracts in English ✓ Bibliographic Information in Roman Script ✓ Clarity of Language ✓ Timeliness and/or Publication Volume ✓ Website Functionality/Journal Format ✓ Presence of Ethics Statements ✓ Editorial Affiliation Details ✓ Author Affiliation Details	✓ Editorial Board Composition ✓ Validity of Statements ✓ Peer Review ✓ Content Relevance ✓ Grant Support Details ✓ Adherence to Community Standards ✓ Author Distribution ✓ Appropriate Citations to the Literature	✓ Comparative Citation Analysis ✓ Author Citation Analysis ✓ EBM Citation Analysis ✓ Content Significance

Successful outcomes

Starts editorial triage

Starts editorial evaluation

Enters ESCI and is evaluated for impact

Enters SCIE/SSCI/AHCI

Unsuccessful outcomes**Failed initial triage**

Re-submission welcome as soon as issues have been resolved

Failed editorial triage

Re-submission welcome as soon as issues have been resolved

Failed editorial quality evaluation

Re-submission subject to embargo of at least two years

Failed editorial impact evaluation

Entry/continued coverage in ESCI

Re-evaluation subject to embargo of at least two years

2020年9月26日

一般社団法人 人文地理学会 会長 野間 晴雄 殿
第20回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会
三木理史（委員長）
古賀慎二，山村亜希，吉田剛

本委員会は、第20回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：熊谷圭知

受賞対象図書：『パプアニューギニアの「場所」の物語—動態地誌とフィールドワーク—』九州大学出版会，2019年，528頁。

選考理由：

本書は、開発とジェンダーを追求するなかで、グローバルな資本主義によるジェンダー再編によって世界の協働・共闘関係を構想することを目的としている。調査者のフィールドとの関わりにおいて調査者本人とフィールドの双方に何をもたらすのかを記述すべきとする著者の主張の下、地誌やフィールドワークのあり方を正面から検討した稀有な成果でもある。同時に著者の39年にわたるパプアニューギニア研究の集大成ともなっている。

全体は3部構成になっており、その第Ⅰ部である第1～3章では、開発、移動、場所、動態、フィールドワークなどのキーワードを検討し、これらの概念をまとめ直し、グローバル化時代における地誌の実践につなげている。各章は、第Ⅱ部以降のパプアニューギニアに関する具体的事例研究の導入として、その要点を平易かつコンパクトにまとめ、初学者に資するのみならず、専門家に新たな論点を想起させる内容ともなっている。

パプアニューギニアの辺境化のダイナミズムを描写する第Ⅱ部では、外部世界との遭遇の過程で人々が生活実践をいかに変化させてきたかを記述する。まず周縁化過程を批判的に総観し（第4章）、高地周縁部ミアンミンの「伝統社会」が静態的で安定した社会ではなく、空間的移動と場所構築のダイナミズムを持つことを示して植民地政府との接触を機に、失われた軌跡をたどる（第5章）。そして第6～7章では、植民地化によって出現した都市空間における村から移動してきた人々の生活世界の構築を、ポートモレスビーを例に描写している。第8章はブラックウォーター流域の村落の話題を中心に議論している。

第Ⅲ部は、JICA 専門家として、あるいは著者個人として、開発実践に関与するうえで葛藤や試行錯誤を描写し、第9章で都市のセトルメントについて、ワークショップを通じて偏見を修正し、行政の改善スキームに関与した経験について語っている。第10章は元日本兵の寄付、儀礼の撮影 要請など、複数の要素の絡み合いのなかで、女性の発言権向上や自発的な小学校設立などの目に見える成果を示している。

本書は、パプアニューギニアにおける約40年にわたる丹念なフィールドワークによって培われた人びとと場所のダイナミズムを描く人文地理学の地域調査の発展形でもある手法を、「動態地誌」という名称で新しい地域調査の形態として提起することによって、今後の斯界における多くの研究者の共有財産となり得る成果として高く評価できる。

以上、本書は人文地理学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

2020年9月26日

一般社団法人 人文地理学会 会長 野間 晴雄 殿
第20回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者選考委員会
三木理史（委員長）
古賀慎二，山村亜希，吉田剛

本委員会は、第20回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：網島聖

受賞対象図書：『同業者町の研究—同業者の離合集散と互助・統制—』清文堂出版,2018年,248頁。

選考理由：

本書の課題は、在来産業基盤として大都市内部の産業集積に注目して日本における産業化の歴史の一端を再検討することにある。そして経済地理学などの産業集積研究を通じ同業者町が継承・発展させてきた制度・組織・慣習に着目するとしている。特に本論相当章では産業化期の大阪に、なかでも第Ⅳ～Ⅵ章では医薬品産業と材木業に、各々注目した。

第Ⅰ章では上記の本研究の背景と目的、研究対象と方法を簡潔に述べ、第Ⅱ章において研究の立脚点となる都市の産業化と在来的産業基盤に関する先行研究を整理したうえで、対象とする同業者町、さらに分析視角となるマーシャルの産業地域論と産業集積、などに関する議論を整理して問題点の析出を行っている。それを踏まえて第Ⅲ章では主要な対象となる大阪の同業者町を商工名鑑的な出版物に拠りながら概観し、明治・大正期において医薬品同業者町が1箇所集積を継続するのに対し、材木業集積地区は移動や複数への分裂を繰り返すという対照性を見出し、その要因を取扱商品の特性と関係づけて説明する。

第Ⅳ章は医薬品産業の集積地として知られる明治・大正期の大阪道修町を事例に、卸売業を維持・発展させてゆくために製薬業への拡張が図られてきたことを主張している。その道修町の変化を業者間の調整機能に着目して追跡した第Ⅴ章では、業者相互の価格競争から、次第に系列内の卸売業者間へと移行してゆくようになったとする。

前2章の少量高額の医薬品と対照的な重量品を取り扱う西長堀付近の材木問屋を取り上げた第Ⅵ章は、同業者組合の利害対立調整による集積の統合・維持効果を十分に発揮できなかったことに注目し、同業組合のフォーマルな調整機構が利害対立に即さず、また市売の制度・慣習が非常に閉鎖的であったことを主張している。

第Ⅶ章では産業化期の大阪の同業者町を4つの類型に区分し、前章までの議論を踏まえ、マーシャルの産業地域論との関わりから、従来の産業地域研究の中小製造業者とその水平的ネットワークへの過大評価や、主体間の協調的行動を可能にする制度・組織に関する分析の不充分さに、問題点を見出している。そして第Ⅷ章の結語へとつなげている。

さらに補章で商工名鑑的資料の価値を検討して本論の議論を補っている。

1960年代まで盛んであった同業者町研究を、新たな視点から再考し、現代的な内部の協調機能に着目して分析した研究として、今後の発展的展開に期待できる成果である。

以上、本書は人文地理学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

2020年9月26日

一般社団法人 人文地理学会 会長 野間 晴雄 殿
第20回人文地理学会学会賞(一般図書部門)候補者選考委員会
林 紀代美(委員長)
門井 直哉, 作野 広和, 寺谷 亮司

本委員会は、第20回人文地理学会学会賞(一般図書部門)候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者: 関戸明子

授賞対象図書: 『草津温泉の社会史』, 青弓舎, 2018年, 219頁

選考理由:

本書は、多くの人びとから認知、支持される「草津(温泉・町)」の形成史を人文地理学的な調査により注目した成果を発信した著作である。

本書は単なる年代記ではなく、地域の諸活動・事象を成り立たせている地域資源、旅行者らを受け入れてきた地域社会のありようや産業展開の記録・データ、訪れた旅行者のテキスト、目的地と旅行者をつなぐメディアから、草津の地域的特徴とその変遷を明らかにしている。まず、草津の自然条件や、温泉関連資源の価値、その利活用の歴史や方法に言及している。そこでは、療養の場としての役割、それを可能とする泉質と源泉を生み出す自然環境や、鉱工業の発展・衰退など、自然条件と人とのかかわりに着目している。続けて、人口・就業者数の変動、観光業の試み、行政の対応など社会・経済活動の変遷とその背景を捉えている。加えて、温泉地としての草津に対する人々のイメージの変化を追究している。これにより、地域形成の過程や、全国の主要温泉地と対比した草津の特徴を描いている。

なかでも特筆すべきは、まちづくりや温泉活用におけるハンセン病政策の影響、湯治・療養客の動向に関する考察、言及である。多くの人々にとってより見えにくい地域の特性や役割、関わる人や地域の営みと姿勢への注目があることで、現在の賑わう温泉街中心部の印象・体験からだけでは気づくことが難しい地域のありようや役割の理解を促すものとなっている。

これら考察の結果、温泉を中心とした観光地というステレオタイプ的な見方を相対化し、草津という地域の形成史を多面的、立体的に描き出している。

調査にあたり筆者は、豊富な史料、統計データ、絵図・鳥瞰図、地図、紀行文、新聞や雑誌の記事と写真、絵はがきなど、多様な素材を活用し、時間軸と空間軸を通して地域を読み解いている。丁寧な資料分析を基にした記述、指摘がなされ、一朝一夕にはなし得ない努力に基づいた著作といえる。

結果はわかりやすい表現で著され、学術的成果を一般読者に無理なく橋渡しされているため、研究活動の社会への普及に貢献するところも大きい。本書の知見は、多くの人々が漠然と抱いている、限られた側面から見つめている「草津(温泉・町)」の理解や評価を、より多様で深いものとするだろう。

以上の理由から、本書は人文地理学会学会賞一般図書部門にふさわしい著作であると当委員会は判断した。

2020年9月26日

一般社団法人 人文地理学会 会長 野間 晴雄 殿
第20回人文地理学会学会賞(論文部門)候補者選考委員会
山根 拓(委員長)
堤 純, 今里悟之, 香川雄一

本委員会は、第20回人文地理学会学会賞(論文部門)候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者:佐藤香寿実

受賞候補論文:「「スケールのパフォーマティヴィティ」とストラスブールの大モスク建設—アクターの言説実践に着目して—」,『人文地理』第71巻4号,2019年,393-416頁。

選考理由:

独仏国境付近に位置するストラスブールが、本論文の対象地域である。ストラスブールはフランスにありながら例外的にライシテ(非宗教性の原則)が適用されない場所であり、アルザス・モーゼル地方に基づき、公的援助を受けて2012年にモスクが完成した。本論文は、社会構築主義的視角に依拠し、モスクの建設過程やその物質性に、諸アクターのスケール言説の実践がいかに関わったのか、また建設後のモスクが新たなスケール言説をいかに再構築したのかを分析し解明した。鍵概念である「スケールのパフォーマティヴィティ」とは、諸々の「スケール」が様々な「アクター」による反復的な言説実践の遂行により実在化され効果を発揮することである。著者は、語学能力を活かして、文献調査及びストラスブールにおけるフィールドワーク(半構造化インタビューと参与観察)を行い、採集した諸アクターの「語り」を分析し、モスク建設過程および建設後における様々なスケールのパフォーマティヴィティを示すことができた。様々なスケールの言説実践が社会や個人による「ここ／よそ」の区別に結び付けられる一方、それが区別の境界を再構築し続ける未完の過程であることも示した。

次に、本論文の高く評価できる点を挙げておく。まず、興味深い対象地域を選定し、現地調査で諸アクターの語りを丹念に採取解釈し、それらを効果的に用いて政治地理学的「スケール」論に基づく実証的成果を得た点が挙げられる。反復的なスケールの言説実践によるスケールの再構築過程が、実証的に示された。本論文は政治地理学的スケール研究の系譜にあるが、これらの点に筆者の独創性を認めることができる。

また、本論文は、政治・社会・文化地理学等の人文地理学諸分野に跨った成果として、各分野の発展に寄与するものである。さらに、その成果は、宗教学、政治学、社会学、外国地域研究等の他分野とも共有されるものである。したがって、本論文は人文地理学研究の内外に、広く貢献し得る研究成果と言えよう。その他、論理構成の堅実さ、現地語を駆使したインタビュー等の調査方法の入念さ等も評価できる。そして将来的には「スケールの政治」の在り様に関する様々な地域の研究に、本論文の枠組が応用され成果を得ることが期待される。

以上により、本論文は人文地理学会賞(論文部門)の授与に値するものであり、著者をその候補者として推薦する。

【2020/21年度 事業計画】

2020年定時社員総会資料

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2020年	10: 常任理事会					12: 常任理事会
10月	17: 理事会⑤		72巻3号発行			19: 理事会
11月	14: 理事会①	14-23: 大会 (オンライン)	7: 第7回		28-29: 地理科学学会 大会(広島大&オンライン)	9: 編集委 16-18: 大会(関西大)
12月	12: 常任理事会① 19: 理事会②		72巻4号発行			14: 常任理事会 21: 理事会
2021年						11: 編集委 25: 大会準備委
1月			9: 第1回			
2月						
3月	31: 常任理事会②		13: 第2回 73巻1号発行			14: 編集委 20-22: 日本地理学会大会
4月	10: 理事会③					4: 常任理事会 11: 理事会
5月			15: 第3回		28-30: 経済地理学会 大会(阪南大)	16: 編集委 22-24: 歴史地理学会大会 23: 地理科学学会大会
6月			12: 第4回 (合評会)	26-27: 特別例 会(長崎)		13: 編集委 27-28: 特別例会(中止)
7月	3: 常任理事会③ 10: 理事会④		10: 第5回		31-8/2: 歴史地理学会 大会(沖縄国際大)	4: 常任理事会 11: 編集委 11: 理事会
8月			73巻2号発行			22-23: 地理教育学会大会 24: 大会発表申込締切
9月	18: 常任理事会④ 25: 理事会⑤		11: 第6回			上旬: 大会準備委(中止) 12: 編集委 19: 常任理事会 26: 理事会
10月	9: 常任理事会⑤ 16: 理事会⑥		73巻3号発行			10: 常任理事会 17: 理事会
11月		20-21: 大会 (関西学院大)	13: 第7回			7: 編集委 14-23: 大会(オンライン)

<収入の部>

科目	2019/20年度 予算	2019/20年度 決算	執行率	差額
1 会費	¥11,300,000	¥11,265,528	99.7%	¥-34,472
2 出版物売上	¥1,000,000	¥818,064	81.8%	¥-181,936
3 雑収入	¥150,000	¥656,090	437.4%	¥506,090
4 大会収入(参加費・広告)	¥900,000	¥1,060,500	117.8%	¥160,500
5 受取利息	¥2,000	¥1,121	56.1%	¥-879
6 未払い費用(選・名)	¥200,000	¥200,000	100%	¥0
計	¥13,552,000	¥14,001,303	103.3%	¥449,303

<支出の部>

科目	2019/20年度 予算	2019/20年度 決算	執行率	差額
1 雑誌生産費	¥4,000,000	¥3,663,710	91.6%	¥336,290
2 雑誌期首棚卸高		¥1,340,043		
3 雑誌期末棚卸高		¥-1,422,990		
4 編集費	¥350,000	¥209,447	59.8%	¥140,553
5 雑誌発送費	¥660,000	¥708,132	107.3%	¥-48,132
6 集合費	¥200,000	¥495	0.2%	¥199,505
7 大会開催費	¥1,400,000	¥1,628,774	116.3%	¥-228,774
8 研究部会運営費	¥320,000	¥65,764	20.6%	¥254,236
9 給料手当	¥2,400,000	¥2,881,500	120.1%	¥-481,500
10 保険料	¥350,000	¥343,616	98.2%	¥6,384
11 旅費・交通費	¥300,000	¥86,490	28.8%	¥213,510
12 通信費	¥300,000	¥195,108	65.0%	¥104,892
13 顕彰事業費	¥50,000	¥49,258	98.5%	¥742
14 企画・広報事業費	¥40,000	¥0	0.0%	¥40,000
15 会合費	¥60,000	¥31,884	53.1%	¥28,116
16 選挙費	¥200,000	¥118,850	59.4%	¥81,150
17 選挙費積立金	¥0	¥0	-	¥0
18 諸印刷費	¥35,000	¥17,600	50.3%	¥17,400
19 名簿作成発送費	¥300,000	¥302,500	100.8%	¥-2,500
20 名簿作成発送費積立金	¥0	¥0	-	¥0
21 消耗品費	¥140,000	¥119,305	85.2%	¥20,695
22 機械借上費	¥120,000	¥134,889	112.4%	¥-14,889
23 室料(家賃・光熱費)	¥1,267,000	¥1,247,898	98.5%	¥19,102
24 相談手数料	¥100,000	¥89,811	89.8%	¥10,189
25 寄付金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
26 若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000	¥0	0.0%	¥500,000
27 租税公課	¥70,000	¥70,600	100.9%	¥-600
28 諸会費	¥50,000	¥50,000	100.0%	¥0
29 J-stage公開費	¥110,000	¥145,700	132.5%	¥-35,700
30 雑費	¥30,000	¥0	0.0%	¥30,000
31 予備費	¥100,000	¥0	0.0%	¥100,000
計	¥13,552,000	¥12,178,384	89.9%	¥1,373,616

収支差額	¥0
------	----

<繰越金>

前期末純資産額	¥29,592,452
今期末純資産額	¥31,415,371

<収入の部>

科目	2020/21年度 予算
1 会費	¥11,200,000
2 出版物売上	¥1,000,000
3 雑収入	¥150,000
4 大会収入(参加費・広告)	¥30,000
5 受取利息	¥2,000
6 未払い費用(選・名)	¥0
計	¥12,382,000

<支出の部>

科目	2020/21年度 予算
1 雑誌生産費	¥4,000,000
2 編集費	¥350,000
3 雑誌発送費	¥660,000
4 集合費	¥200,000
5 大会開催費	¥650,000
6 研究部会運営費	¥320,000
7 給料手当	¥2,400,000
8 保険料	¥350,000
9 旅費・交通費	¥200,000
10 通信費	¥350,000
11 顕彰事業費	¥50,000
12 企画・広報事業費	¥40,000
13 会合費	¥60,000
14 選挙費	¥0
15 選挙費積立金	¥100,000
16 諸印刷費	¥35,000
17 名簿作成発送費	¥0
18 名簿作成発送費積立金	¥100,000
19 消耗品費	¥100,000
20 機械借上費	¥120,000
21 室料(家賃・光熱費)	¥1,267,000
22 相談手数料	¥150,000
23 寄付金	¥100,000
24 若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000
25 租税公課	¥70,000
26 諸会費	¥50,000
27 雑費	¥60,000
28 予備費	¥100,000
計	¥12,382,000

収支差額	¥0
------	----

損 益 計 算 書

自2019年10月1日 至2020年9月30日

一般社団法人人文地理学会

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
【経常収益】		
受 取 会 費	11,265,528	
事 業 収 入	818,064	
受 取 負 担 金	1,060,500	
財 務 収 益	1,121	
その他 収 益	656,090	
経常収益計		13,801,303
【経常費用】		
(事業費)		
期首会誌棚卸額	1,340,043	
会 誌 生 産 費	3,663,710	
期末会誌棚卸額	▲ 1,422,990	
大 会 開 催 費	1,628,774	
顕 彰 事 業 費	49,258	
若手研究者国際会議派遣助成事業費	0	
事業費計		5,258,795
(管理費)		
給 料 手 当	2,881,500	
保 險 料	343,616	
集 会 費	495	
編 集 費	209,447	
研究部会運営費	65,764	
旅 費 交 通 費	86,490	
通 信 費	195,108	
雑 誌 発 送 費	708,132	
企画・広報事業費	0	
会 合 費	31,884	
選 挙 費	118,850	
諸 印 刷 費	17,600	
名簿作成発送費	302,500	
備 品 費	0	
消 耗 品 費	119,305	
賃 借 料	134,889	
地 代 家 賃	1,247,898	
租 税 公 課	70,600	
相 談 手 数 料	89,811	
寄 付 金	100,000	
諸 会 費	50,000	
J-stage 公開費	145,700	
予 備 費	0	
管理費計		6,919,589
経常費用計		12,178,384
経常利益		1,622,919
(経常外損益の部)		
【経常外収益】		
選挙費積立金取崩額	100,000	
名簿作成発送費積立金取崩額	100,000	
経常外収益計		200,000
当期純利益		1,822,919

貸 借 対 照 表

2020年 9月 30日 現在

一般社団法人人文地理学会

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 純 資 産 の 部	
科 目	金額	科 目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	29,446,631	預 り 金	22,710
会 誌	1,422,990		
仮 払 金	76,500		
未 収 入 金	88,996		
流動資産合計	31,035,117	流動負債合計	22,710
【固定資産】		負債の部合計	22,710
投資その他の資産		純 資 産 の 部	
保 証 金	1,400,000	基 金	0
その他固定資産合計	1,400,000	剰 余 金	32,412,407
固定資産合計	1,400,000	純資産の部合計	32,412,407
資産合計	32,435,117	負債及び純資産合計	32,435,117

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

②資産の評価基準及び評価方法

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

会誌：最終仕入原価法による原価法

附 属 明 細 書

2020年 9月 20日 現在

一般社団法人人文地理学会

1. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
選挙費積立金	100,000	0	100,000	0
名簿作成発送費積立金	100,000	0	100,000	0

一般社団法人人文地理学会 会長・理事・監事候補者

任期：2020 年定時社員総会～2022 年定時社員総会

会長候補者 野間 晴雄

第 4 回理事会（2020 年 9 月 26 日開催）において、佐藤廉也選挙管理委員長より会長予備選挙（投票用紙発送 2020 年 7 月 14 日、投票締切 8 月 6 日、開票 8 月 11 日）の結果として報告があった。

監事候補者（2 名）

出田 和久 片平 博文

理事候補者（21 名）

天野 太郎	荒木 一視	上杉 和央	小方 登
岡橋 秀典	香川 雄一	加藤 政洋	河原 典史
神田 孝治	古賀 慎二	田中 和子	土屋 純
堤 研二	根田 克彦	藤田 裕嗣	二村 太郎
松田 隆典	水野 真彦	南出 眞助	若林 芳樹
野間 晴雄			

第 3 回理事会（2020 年 7 月 11 日開催）において、佐藤廉也選挙管理委員長より理事・監事予備選挙（投票用紙発送 2020 年 5 月 13 日、投票締切 6 月 10 日、開票 6 月 12 日）の結果として野間晴雄を除く 20 名の報告があった。野間晴雄は「一般社団法人人文地理学会会長選出に関する規程」第 6 条 2 項の規程により会長予備選挙の結果として理事候補者に加わるものである。

一般社団法人人文地理学会 常任理事会・常任委員（案）

常任理事会

任期 2020 年定時社員総会・理事会～2022 年定時社員総会・理事会

会長（代表理事） 野間 晴雄

常任理事（業務執行理事）

古賀 慎二（庶務） 加藤 政洋（会計） 上杉 和央（編集）

香川 雄一（集会） 藤田 裕嗣（企画・広報）

（ ）内は所掌委員会

常任委員

任期：2020 年定時社員総会～2021 年定時社員総会

庶務委員会： 古賀 慎二* 安藤 哲郎 河角 直美

会計委員会： 加藤 政洋* 熊野 貴文 本岡 拓哉

編集委員会： 上杉 和央*	水野 真彦	宇根 義己	
桐村 喬	倉光 ミナ子	阪上 弘彬	鈴木 晃志郎
祖田 亮次	淡野 寧彦	土平 博	土屋 純
服部 亜由未	濱田 琢司	藤塚 吉浩	村田 陽平
村中 亮夫	森 正人		

集会委員会： 香川 雄一*	菊地 真	波江 彰彦
山神 達也	山本 理佳	

企画委員会： 藤田 裕嗣*	浅田 晴久	稲垣 稜	秦 洋二
---------------	-------	------	------

広報委員会： 藤田 裕嗣*	谷端 郷	寺床 幸雄
---------------	------	-------

* は常任理事